

若狭青年会議所 まちの未来創造委員会
委員長 河嶋 秀明 さん (35歳・水取一丁目)



きりり おばま 人

普段はまちの電機屋さん。3年前から、若狭青年会議所に参加。今年はプロジェクトの委員長として、重要伝統的建造物群保存地区の小浜西組でイベントやワークショップを行う『若狭ロマンカフェ』を企画。準備を進めています。

「人が集まり、自分のまちの魅力語り合える場所を作りたいかったです。3月から三丁町の空き家を拠点として活動を始めています。プロジェクト名は、固いイメージを崩して、親しみやすく『カフェ』と名づけました」

『若狭ロマンカフェ』でまちと人の心を動かしたい

「まちづくりの企画を作り上げていくというのは、普段の仕事とは全然違う感覚。大きなイメージを持って望んだが、最初はそれを形にできませんでした」と当初の苦労について語ります。

3月と4月に市内外から参加者を集めてワークショップを開催したことで、少しずつ形が見えてきました。

「地域がもともと持つ歴史や文化の魅力と、参加する人のアイデアを組み合わせ、最終的には住民の皆さんや西組協議会との連携で、地域に根ざしたイベントの実現を目指しています」

『ひとづくりこそ、くにづくり』を理念に、言葉では伝わらない部分も、情熱を持った行動を起こしていけば必ず通じると信じています。

「今までのまちづくりで、役所主導だった部分を、市民協働へと変えていきたいです。団体や住民は単なる受け皿ではなく、自分たちが住むまちを『こんな風になりたい』と声をあげてもらえるようにしたいです。この取り組みで、まちと人の心を動かせれば最高です」と、熱く語ります。

「今回は西組を舞台にしましたが、参加者がそれぞれの地域に『魅力の発見の仕方』を持って帰ってもらい、実践してほしいと思っています」

目指すは7月のイベント開催。情熱を傾けて河嶋さんの挑戦は続きます。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人（グループも歓迎）」を紹介してください。
市民協働課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線373

協働のまちづくり情報BOX (vol. 7)



始まりは、私たち職員が地域に飛び出すこと！

■問い合わせ 市民協働課 ☎内線372

今回は、市民協働のまちづくりを目指して、市民の皆さんとともに日々取り組んでいる市民協働課の担当者の声をお届けします。

●この一年間、市民協働の担当となり、協働について、協働のまちづくり市民会議の委員の皆さんとつよつよに学んできました。

●始めの頃は、委員の皆さんと同様、協働は抽象的で、なんて難しいものなのかと感じましたが、議論を重ねていくうちに、協働は決して新しいものでも特別なものでもなく、昔からあったことがわかりました。

●広報4月号で紹介しました基本指針は、協働の意義や必

●地域に飛び出し、市民の皆さんとつよつよになつて考え、汗をかくことで、わたしたちの小浜を元気なまちにしていきたいと思っています。

要性、あり方などのルールを取りまとめたものです。

●協働を進めていくためには、まず、地域の課題解決に向け、私たち職員が基本指針を理解するとともに、地域活動に参加する中で、市民の皆さんと対話し、さまざまな情報を共有、共感し合うことが大切です。

●対話には手間や時間がかかり、面倒なことも多々あるかと思いますが、そのプロセスこそが大切であり、そこから協働のストーリーが生まれます。

●私たち市職員は協働の旗振り役として、その一方で、地域住民の一人として、協働を積極的に進めていかなければなりません。

俳句

小浜市俳句作家協会

法要の花衣とはなりにけり 上野 泉代 良子
水を得し蛙の声や真昼の田 山手二丁目 井上ひさの
蛙に咲く蒲公英褒めて一人ごと 水取三丁目 津田 菊野

山柳

川柳かもめ教室

いたずらの顔きらきらと伸びざかり 四谷町 宇多 芳子
口の中ゆっくり水になる氷 城内一丁目 江口 文代
入園だばあちゃん出番バッグ縫い 雲浜二丁目 宮脇 和子

短歌

ちぐさ短歌会

頬に受くる風の痛さの強まりぬ 今宵から雪の降り積もらむか 青井 竹村祐美子
梅の木にポツンポツンと白きもの 春の息吹の訪れ感ず 小浜住吉 玉井 絢子
寒行の僧の草鞋の干されるて 禅寺の午後森閑と雪 小浜広峰 玉井 令子

広告

広告

広告

広告

広告

広告